



新教
 後山
 為
 之
 人
 事
 一

76
 5460
 3



霞亭文庫

日露
堂藏
久

世経回看下月録

馬語文庫

- 一 八月よ放生會乃り
- 一 九月九日よ菊の酒と香
- 一 桜發給とそ出入
- 一 十月と神七月との
- 一 同美子乃り
- 一 美子乃日ひげん
- 一 同あ
- 一 十月沙大物乃り

アキ

一十二月、せうげんのまゝあぢる
 一同じくあぢる
 一同じくあぢる
 一同じくあぢる
 一同じくあぢる

世縁同音巻下

八月、しゅうじゆの会あひとく合戦あひせんの場ば、あぢるとて
と闘たうとあぢるのゆゑのゆゑのゆゑ
 高柳八幡大菩薩也、あぢるとてあぢる
 能十代乃神門、あぢるとてあぢる
 天皇の才、あぢるとてあぢる
 天下とあぢる、あぢるとてあぢる
 とあぢる、あぢるとてあぢる
 神也、あぢるとてあぢる



阿弥陀の三昧耶也其故はや行教和尚
し弥陀の三尊よりびんとてみくせはけ
て或ししりし靈鷲山ありて妙法花經と
説き大自在王菩薩ありて説宣しは
ゆく放生會也りの元正天皇乃御宇養
老四年九月異國より我朝とらんせし
大菩薩の神力よりて異敵とらりそ
けゆるく後説宣ありて合戦のあり
とくの人とらりぬ放生會とらりぬ

くさしりありて毎年よ徳園よ
てありありの放生ありて最勝王
経長者子流水品の池魚ありとらり
よまきくよけりよしりありあり
かきりしりありて早且よいれれと
神楽くらを給ふ時なり幸乃義成よ
て喜樂のよきとらりて衣冠のよ
けいひのよきとらりていひとらり
還幸のありて神人法師ありとらり

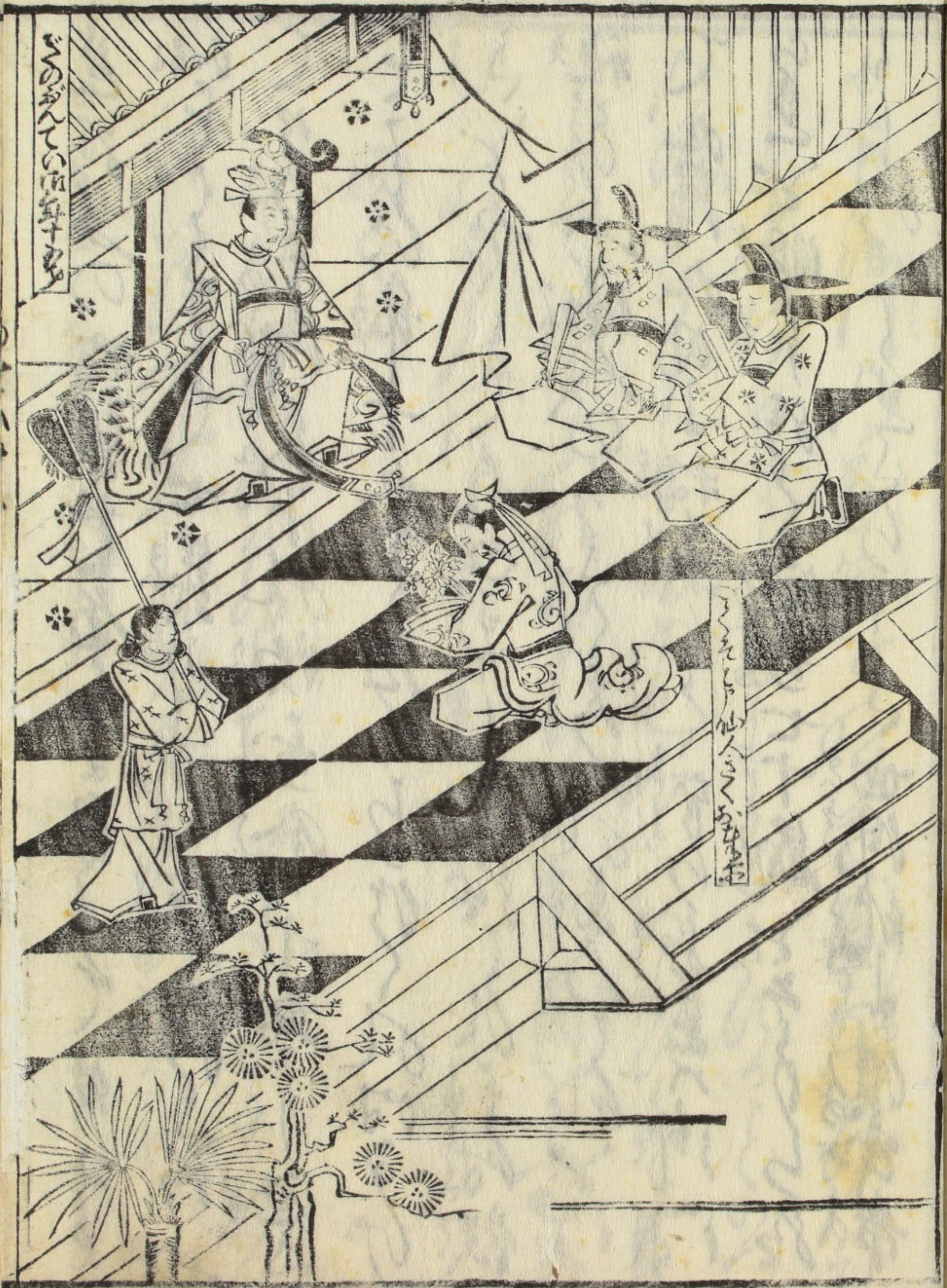
白杖とけさくく入らぬ道よせりのあて
けり義武をらのまをけ朝よ紅顔のく世
海よなれどをく白骨のりく都原
よくらぬの世のまを海と志先く
魚のくくくあつあつこのたあ

九月

同く云

九月九日よ菊の酒香の付らとさ
香中のくふと重陽を八月と日や九陽

の敷よぬふ存入よ重陽をのりまを菊
と月りの世風紀をふ書りて人くゆは
責長房をふ仙人汝南の植桑よのり
てのく九月九日なるらる家よまふ
のふへー葉更に裳よぬけくもらまけ
けよのちりて菊酒とのまけ実をふ
とくたれはまのりくくくく
せくふを身はけくくして家中の鶴は
羊とくくをたらるるくのかく



やんげーの大用一之官湯乃裏とて業
 莫乃臺と以帳よ切け恐行詳せん但ん動うご内のと
 まらりーとそとをききゆふすこ後ご光くわう明めい巻まき
 うる乃神抄よ九月九日の空温二季ふたの
 心こゝろのいあふと此身しん因ゆゑよわらるるりけ時とき也なり
 各おの病やまひと心こゝろとゆくとくふらゆといふといふと
 心こゝろり空温乃二氣大増大城とれいの病やまひの
 とらふらり故針こ以も美み治ちとれ内の別わかり
 てとふらりまこいふと用もちるのハ就あ又また帝てい生なま

同くも

十月と神を月とすん付乃後今そゆるわ
 たい月と神を月とすん修集冊を崩始月
 らせしすのりまの言方れ未未らりいさし
 國さのさく系れ月とすん人のりつとがけり
 何しもさの法神りもれんやしりく下始
 たりすりこもりつと

同くも

十月の美ひこらりつとのりつと

くまのりつと

高倉院

長りののりつとけりしりつと
 四年の神尚加劫久よと本朝のりつと
 とらふそそ本朝のりつと
 くのせもがも中らるるははらりゆるる
 解一解志深集らりしりつと十月
 解とれは万病とのぞくりつとゆる

同くも

いづい白ひんてしとていふわけよ
こいしうしよんから給事一れゆるハ
付の存へわ

長う流りしとてけいの子れ根^{えん}際^せの
よららやとてしとて十月^{あひ}の^{あひ}日^{あひ}に
寮^{りやう}の^{りやう}餅^{もち}とそ^そ入^いぬく^くす^すは^はあ^ある^るん
いそ^{いそ}と^とさ^さう^うと^とあ^あら^らう^う年^{ねん}中^{ちゆう}の^の事^{こと}と
又^{また}物^{もの}よ^よみ^みし^しゆる^{ゆる}今^{いま}の^のし^しよ^よう^うと^とら^らる^るら
うと^{うと}流^{りゅう}し^しよ^よら^ら給^{きつ}事^じの^のあ^あら^らし^して^てゆる^{ゆる}へ

と一人^{ひとり}の^の下^げ可^か民^{みん}よ^よの^のし^しと^とけ^け餅^{もち}と^と合^あは^はす
しと^{しと}み^みし^しと^とら^らら^らと^とあ^あら^らう^うの^の餅^{もち}の^の
解^よ風^{ふう}と^とあ^あら^らし^して^てい^いし^しと^とあ^あら^らう^うと^とら^らる^るら
しと^{しと}ら^ら給^{きつ}事^じと^とあ^あら^らる^るら

十一月

同く云

け月^{げつ}の^のし^しと^とあ^あら^らる^るら^らの^の餅^{もち}の^のを
魚^{いさな}あ^あら^らる^るら^らわ
若^わ白^{はく}流^{りゅう}通^{つう}よ^よ周^{しゅう}の^の世^よよ^よ十一月^{いちじゅうがつ}と^と二月^{にがつ}と^とあ^あら^らる^るら

一えれけるよ天知命がまはれぬの事
 かなしやうしむけとよこまこみくさむ
 舞を大とまきくた天照太神あられ
 けとたと出給ひしら必神あまの
 今も心ゆふしりりりくは神系
 中あまのゆるり人乃を大とま
 松御を湯の先一人まそて下流の人
 のい各中あまの事とまをいあら
 てかびくゆまひん

十二月

同く云

世の人のまあの中への事
 名やうしむけとよこまこみくさむ
 舞を大とまきくた天照太神あられ
 けとたと出給ひしら必神あまの
 今も心ゆふしりりりくは神系
 中あまのゆるり人乃を大とま
 松御を湯の先一人まそて下流の人
 のい各中あまの事とまをいあら
 てかびくゆまひん

吾らの更根係申一ひずご一延喜の
此門の皇子のこゝろにまじりてけりつら
むさしえ根をさるはらへる者老の
そちちや尸にけりつらね丸とく
らえ根を延喜の御門の皇子の
あも申一ね申のららるる
とせよよそれせれゆね申の
はらへるあ尸のり
同く

節分よはらへる
まのねんや
吾らの申一ね申のららるる
神りゆり尸ね天神のあらま
かり申一まね神を
統るゆり尸一國史よ
のそね神のまね
くハ物よ橋を
あはらる

同くも

節分ちうぶんよむのくちとあつた竹のたぐも

春はる白しろ来きし風かぜ氣きとさる系けいしとゆるり

群ぐん葉はあしとたふ夜よ宿しゆくの柿かきの夜より

とふ夜よあつたとあれてとさるしとる

とらゆるくゆる

古ふる世よ續つ同どう音おんとほ成なり思おもはる程ほど周しうの

しり給たまらんそくみまのひとるあし

ふ華はな乃のあしとのしり給たまらんあし

あつじ月つきしりあつたあつた水のあつと

よしりて八はちヶが條ぢょうとあつと給たまらん

でんそし切きりとまらりしとて周しう録ろくの

あつと細こりあつたあつた乃の林りんよあ

そひくあつとあつとあつとあつとあつと

ゆりあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつと

くえ達たつあつとあつとあつとあつと

の史記と班固の史記と史記の史記と
源氏物語と大式位と大式位と大式位と
大式位と大式位と大式位と大式位と
大式位と大式位と大式位と大式位と
大式位と大式位と大式位と大式位と
大式位と大式位と大式位と大式位と
大式位と大式位と大式位と大式位と
大式位と大式位と大式位と大式位と
大式位と大式位と大式位と大式位と
大式位と大式位と大式位と大式位と

とありしはんやあつらひ

天文十三年曆中春下旬日

正三任行権大納言藤原兼光

屋代弘賢ノ初定考ニ後回明寺兼光ノ公也

あ嵩十の才擧之

愚竹馬首作此抄今遠眼前願不思
鏡之開鏡為有之月胡不汝深可禁
外見之也

御列生年女歳

天文十一年作傍從兼和書寫畢

右文政九年秋一見之序漫加朱書年 源親成

世鏡同音卷下終

寛文三年^{癸卯}初夏吉日

寺町誓願寺前

安田十兵衛開板



